

第1回「田園回帰」に関する調査研究会

－ 議事概要 －

1. 日 時：平成28年12月16日（金） 16:00～18:00

2. 場 所：中央合同庁舎2号館11階 総務省11階会議室

3. 出席者：以下のとおり（敬称略、委員は五十音順）

（構成員）小田切 徳美座長、大杉 覚委員、木村 絵里委員、
小林 陽子委員、永沢 映委員、藤山 浩委員

（総務省）時澤地域力創造審議官、中井過疎対策室長、佐藤課長補佐、南里課長補佐

4. 議 事：

- （1）過疎地域の人口動態について
- （2）調査研究方針（案）について
- （3）都市住民へのアンケート調査（案）について
- （4）現地ヒアリング調査の候補地（案）について

5. 主な発言内容：

（1）過疎地域の人口動態について

- ・ 過疎地域の社会移動の傾向をみると、全体的に都市部への人口流出については、減少傾向にあるのではないかと。
- ・ 地方圏でも特に先んじて人口減少・高齢化が進んできた周辺部の山間部や離島に移住者がみられる。都市部から過疎地域に移住する人たちに地方都市の中心部は選択されにくい。
- ・ 東日本の人は東にも西にも移住する傾向にあるが、西日本の人はあまり東日本に移住するイメージがない。移住先の気候が温暖であるかを気にする人は多いと考えられる。
- ・ 移住を考えるターニングポイントは、①20代前半の就職のタイミング、②30代を中心とした結婚のタイミング、③60代の定年退職のタイミング、の3つが挙げられる。なかでも②の30代の移住を増やすことが地域の持続性という点においても重要である。
- ・ 早期退職して移住するケースや介護のために50代男性が帰ってくるケースは多い。最終的には夫婦で移住するが、男性だけ先に移住するというケースも多い。その場合、住まいだけでなく働く場の確保も必要。
- ・ 能登島の移住者には、北陸新幹線の開通をきっかけに移住を決めた人が結構いた。いざとなったらすぐ東京に戻れるということも移住を決める要因になっている。
- ・ 移住を成功に導く上で重要なポイントは3つある。①つなぐきっかけ、②つなぐ人、③つなぐための時間。思い立ってすぐに移住するケースばかりでなく、1～2年かけて行き来を繰り返した後に移住することもある。
- ・ 地方への移住については、今まで全く考えていなかった、たまたま縁があって移住することになった、という人も多い。

- ・ 地縁のない田舎に移住する若者が増えている。そのような事例をみると、都会で歯車の一部となって働く生活ではなく、自分の存在価値が実感できる生き方を求めている若者が移住している。
- ・ 10 年くらい移住促進施策を一生懸命展開してきた地域に移住者が増え始めている実感がある。
- ・ 市町村が様々な移住推進施策をパッケージ化して展開しているということも大きく関与していると思われる。また、地域全体をきめ細かく支援しているところには広がりが見える。
- ・ 移住者のニーズに対し、空き家が不足する場合や、すぐに住める状態の空き家が少ない点も重要な問題。
- ・ 空き家の所有者に移住者を紹介する人がいない場合がある。個人、行政任せにせず、何らかの組織、会社等を作り、責任を持って行うところは成果を上げている。
- ・ 島根県の「田園回帰」の流れは 30 代の女性がけん引している。また、それと同時に、受け入れ側の田舎のお年寄りたちの意識が変わったことが大きな要因。それまでは、田舎のお年寄りたちには、「こんな田舎に戻ってきてもダメだ」という人が多かった。しかし、東日本大震災を機に、田舎に住むことの価値が見直され、意識が変わった。そういう意味で、実際に田舎に住んでいる目線から発信してもらうことが重要である。

(2) 調査研究方針（案）について

- ・ 人口動態について、市町村単位よりもっと細かい単位でみることで良い。
- ・ 西日本では 30 代の「田園回帰」がみられる。その傾向は西高東低ではないか。ブロックごとに分析する必要がある。
- ・ 過疎地域への移住者が、生まれたまちに戻っているのか、それともまったく関係のないところに移住しているのか調査すべき。
- ・ 大きな「市」は町村と比べると移住促進施策が展開されにくい印象。市町村の中でも中心エリアと周辺部とで移住傾向に違いがあるか、移住・定住がうまくいっている地区とうまくいっていない地区があるのかなどを把握すべき。
- ・ 都市部から過疎地域にいきなり移住するのではなく、段階的に移住することも考えられる。また、単身で転出したのか、家族単位で転出したのかなど、転出の段階やパターンに応じた分析ができると良い。
- ・ 妻の実家の方に移住するケースが増えている。移住希望者に対し、移住について夫婦間で意見の相違があるかも調べられると良い。
- ・ 移住の背景や理由については、個人的事由があることに留意。
- ・ 人が増えている地域には必ずキーパーソンがいる。そういう地域のキーパーソンに話を聞いても良い。
- ・ データ分析では、都市部から過疎地域への移住という狭義での「田園回帰」をとらえるが、広義の「田園回帰」、すなわち都市住民のライフスタイルの変化といった面も踏まえて知見を得ることが望ましい。

以上